

日時 : 2009年5月14日(木) AM 10:00 ~ PM 5:00
 場所 : 塗料報知新聞社 会議室
 出席者 : 窪井氏(久保井塗装工業所)、小泉氏(小泉塗装工業所)、広瀬氏(第一塗装工業)、
 内山氏、松本氏、守屋氏(東和酵素)、小林氏(オーウエル)、杉山氏(アネスト岩田)、
 澤居氏(桂精機)、島田(旭サナック)
 アドバイザー:坂井氏(日本工業塗装協同組合連合会技術顧問)
 オブザーバー:神田氏(日本工塗連)、平野氏(CEMA)
 事務局:有馬弘純氏(塗料報知新聞社) 14名 敬称略

***** 議 題 *****

1. VOC対策セミナー実行委員会

実行委員:窪井氏(実行委員長)、松本氏、坂井氏、有馬氏、神田氏、平野氏、島田(副委員長) 7名

時間: AM 10:00 ~ PM 12:20 [坂井氏オブザーバー参加]

(1) 本日の議題

- 1) 申し込み状況の確認(再PR方法と日程決め)
- 2) 進捗確認と当日セミナー作業・役割分担決定
- 3) セミナー全体のアウトライン作成
- 4) アンケート決定(利用目的の明確化)
- 5) カタログ収集と選択条件について
- 6) 展示物、パネル展示について
- 7) その他

(2) 結果

1) 申し込み状況の確認

5月13日の時点で111名(分科会メンバー3名の窪井氏、小泉氏、坂井氏含む)の申し込み。

分科会メンバー3名は招待扱いとしている。

その他、現在(社)日塗工 久米氏も招待者としている。

① 申し込み者数の予測

	対 象	人数
1	当日工塗連理事会メンバーの参加	10名程
2	CEMAシンポジウム参加者(約85名に送付)は1/4程度の見込み	20名
3	CEMA会員会社の参加はこれから(今来週中に申し込みされると予想)	30名
	合計	60名

② 招待者人数予測

	対 象	人数
1	報道機関(7社)	7名
2	各団体(日塗工、日塗商、日塗装、日塗技、パウダー協)1名	7名
3	経済産業省(挨拶)	1名
4	日ペ招待者	10名
	合計	25名

③ 関係者

	対 象	人数
1	両会長(山崎会長、小林会長)	2名
2	分科会メンバー(発表者、座長、司会など)	13名
合計		15名

④ 今後のPR活動

①の申込者予測で60名としており定員を超えるため、これ以上の宣伝、PRは控える。

⑤ 締め切り予定

CEMA関係は5/11以降に案内が届くため、5月30日までをもって締め切りとする。

ただし、定員150名を5/30までに超えた場合はその日で締め切りと仮決めした。

尚、5/30以前に締め切る場合は、関係者に連絡を入れ追加人数の可否を確認する。

- ・申し込み者への断りFAX通知文を用意し、事務的に行うようにする。(FAX通知文は平野氏)
- ・締め切り後の電話などの申し込み問い合わせは個別対応する。(神田氏)

2) 進捗確認と当日セミナー作業・役割分担決定

① 進捗確認表にて残りの内容を決めた。

	項目	ご担当	進捗
1	来賓挨拶(経産省)への依頼	神田氏、平野氏	完了(ア)
2	プログラム送付(CEMA会員、CEMAシンポジウム参加者) 5/8に送付済み。	松本氏	完了
3	アンケート案協議	平野氏	完了(イ)
4	セミナー当日の配布、展示物	内山氏	完了(ウ)
5	他業界・行政への招待、及び案内(非招待)	平野氏	完了④

(ア) 化学課の葛岡課長補佐が異動となり、化学課の新任課長補佐を予定。

最終決定の確認を引き続き神田氏にお願いした。

(イ) 4/25に修正を行ったデータを本日見直せなかったため、再度実施。

4/25実施の内容と合わせて関係者へメールして問題なければ完了とする。(島田)

(ウ) A2サイズのハレパネ(のり付きスチレンボード)4枚用意。約800~1000円/1枚。(有馬)

午後の分科会にて発表者へ展示内容を確認した。

- ・スクラパー展示物の紹介用(内山氏)
- ・水性塗装サンプル板紹介用(窪井氏)
- ・洗浄に使用したテフロンホースとチューブ類の紹介用(広瀬氏)
- ・ポンプ(アネスト岩田)~ホース~ガンのセット品;小林氏発表の紹介用(杉山氏)

(エ) 当初予定していた招待は、参加者多数の予測から案内のみと仮決めし、その後の申し込み状況を確認しつつ平野氏にお任せすることとした。

(オ) その他:

- ・業界紙のリストアップを有馬氏に再度お願いした。(有馬氏)
- ・日本ペイント招待10名について、別途招待状発送をメールで協議する。

② 当日セミナー作業

- ・受付:有馬氏、平井氏(女性;東和酵素)、松本氏(サブ;東和酵素)の3名。
- ・司会(小泉氏):会場入りする参加者へ3人掛けの案内を都度マイクで行う。
ビデオ撮影・録音禁止、携帯マナーモード、トイレと喫煙場所など会場説明
- ・当日の連絡網:金銭関係は神田氏、会場関係とその他は平野氏へ問合せする。
お二人の位置は座席表(下記記載)で確認しておく。(体調不良者、著しく態度の悪い方に注意)

3) セミナー全体のアウトライン作成

① 配布資料 (レジメ付きプログラム、高度化協議会の説明資料、アンケート用紙)

- ・レジメ付きプログラムは発表内容(骨子)が決まり次第作成。(島田)
- ・高度化協議会説明資料は「工業塗装」No.218 掲載と同じ資料を配布する。(印刷は有馬氏)
- ・アンケート用紙については下記。(印刷は有馬氏)

② 会場準備関係

- ・座席表別途作成し関係者へ配布(メール案内)する。(島田)
- ・スタッフフォルダーの用意 20ヶ 100円/1ヶ (有馬氏)
- ・A2サイズのハレパネ(のり付きステレンボード)4枚用意。(有馬氏)
- ・つり銭用意 (神田氏)
- ・領収書(振込み者へ送っているもの)用意 (神田氏)

③ PP(パワーポイント)資料要求

- ・発表内容が決まっていないので次回6/12に決定する。予定としては、可能な範囲で
工塗連、CEMAのHPに載せる案が提示された。

④ 予定と作業内容

	項目	ご担当	期日	確認
1	発表の骨子作成	各発表者	5月中 メールで事前確認	6/12分科会
2	準備材料の確認 (スタッフフォルダー、ハレパネ、 座席表、展示物、ペレットなど)	各実行委員 各発表者	5月中 メールで事前確認	6/12分科会
3	配布資料(3部)の確認	各実行委員		
4	その他会場関係	島田、平野氏	5月中	6/12分科会

4) アンケート決定(利用目的の明確化)

上記 2) 表 3 項 (イ)に記載。

- ・案内者の業態から選択肢の項目の表現を具体化し見直しを実施した。
- ・今後普及活動を検討するため、『協議会に期待すること』の項目を設けた。

5) カタログ収集と選択条件について

- ・CEMA会員に5/22までに募集案内を発信し、5/30締め切りで進める予定。(平野、島田)
- ・送り先は東和酵素殿で了解された。(松本氏)

6) 展示物、パネル展示について

上記 2) 表 4 項 (ウ)に記載。

7) 実行委員会スケジュールと概要

次回はセミナー1週間前の6/12(金)とし最終調整期間を1週間とする。

第	日程	予定議題
5	6/12	①申し込み状況の確認、②会場関係準備最終進捗確認、 ③発表内容の確認(分科会主体で実施)
6	6/17	打合せ、整合の予備日
7	6/18AM	セミナー最終チェック

2. 環境技術分科会

窪井氏、小泉氏、広瀬氏、内山氏、松本氏、守屋氏、小林氏、杉山氏、澤居氏、坂井氏、有馬氏、
神田氏、平野氏、島田 14名

時間: PM 1:00 ~ PM 5:00

- ① スラッジドライヤーについて桂精機製作所殿によるご紹介、説明
- ② 塗料スラッジリサイクルペレット成型について(有正氏参加予定)
- ③ 水性塗料の塗装実験報告 [久保井塗装工業殿 窪井氏]
- ④ その他経過報告

(1) 本日のVOC実行委員会決定事項の報告(島田)

(2) 各テーマの経過報告

① 洗浄調査報告 [第一塗装工業殿 広瀬氏]

5/12(火) 実施事項の報告

- ・ ブシューのデメリットが示されるような結果につなげるようにする。
- ・ 平均シンナー使用量はブシューで80g程度。
カプラが100gで数値比較するとブシューの方が効果良いことが説明された。
カプラは2~5色を色替する場合に有効とし、単色をメインとする第一塗装工業殿では不向き。
カプラが良くないということではなく、用途に応じた選定と取扱いを発表で示すことが必要。
- ・ 新品と中古シンナーの使用量など現状調査結果の報告。
洗浄シンナー量は中古シンナーの場合264g、新品の場合376g、これらから月当たりの金額
算出が報告された。
比較的金額値は小さく、効果が低いように捉えられないようにする。このため、ホース長や径の
実験を実施し、廃溶剤の回収のメリットと合わせて取組んで頂くこととした。
- ・ 実験予定
通常ブシューの廃棄量再調査、ブシュー+テフロンホース、ブシュー+テフロンホース(1m短)
実ラインで実施するのではなく、時間を用意して頂きN数5回の平均を調査して頂く。

② 水性塗料の塗装実験報告 [久保井塗装工業殿 窪井氏]

実験実施予定として5/23(土)に行うため、本日はその内容を説明し分科会で協議した。

- ・ 水性塗料にいきなり取組むよりハイソリッド塗料で塗装経験を得ることが望ましい。
塗料粘度が水性塗料とハイソリッド塗料とは似ており、塗装条件など粘性の低い溶剤塗料での
現状を変更するにはハイソリッド塗料が有効という話を発表に用いる。
- ・ コスト削減との関係
溶剤の場合に必要な高価なVOC燃焼装置を用いなくても、水性化にするだけでVOC排出を
低減されることを説明予定。
⇒この場合、ブースや乾燥に対して大きな設備投資をしなくても良い結果が必要。

5/23に実験でこの内容を検証して頂くようお願いした。

実験ポイントについて以下の意見が出されました。

※ 塗装方法(霧化圧、パターン、高粘度に対する処置など、ガンをHVLPに替る)

※ 空調(温湿度) 温度管理幅など。実験では必要なかったことを紹介。

※ 乾燥設備とセッティング時間(水性と溶剤の違い・・・既存で問題ないと紹介したい)

・ 参考情報

自動車補修塗装では水性化を展開。薄塗りして何度も塗装する方法がある。

③ 塗料スラッジリサイクルペレット成型について(有正氏参加予定)

有正氏のご欠席より島田に情報を頂いていたため、有正氏に代わって報告。

・ 成型企業からの質問と回答

○成型後の製品を破棄する場合の影響(燃焼時の有害物質、燃焼温度)が懸念。

⇒ペレットの物質調査を検討していると有正氏へ伝え先方に連絡して頂いている。

○樹脂成型は既存金型で実施可能

⇒攪拌棒(長さ 300mm×幅 30mm×厚み 5mm)に見合う形状を打診し、“しゃもじ”の回答を頂いた。食品関係なのでもう少し協議必要とした。

④ スラッジドライヤーについて桂精機製作所殿によるご紹介、説明

現状の主旨と課題を澤居氏に説明。

・ スラッジ乾燥テストは可能。

・ 一度トライをご予定して頂くこととした。必要なスラッジの提供は第一塗装工業殿で用意。

(2) 各テーマ発表骨子

① 塗装/塗装機器 [オーウエル殿 小林氏]

塗装現場のモデル図を加えて、視覚的にポイントを指示する方法を加えることとした。

発表最後のまとめに用いると効果的との意見より小林氏にて検討して頂くこととした。

発表資料は平野氏よりご提供頂く。

② 洗浄 [第一塗装工業殿 広瀬氏]

発表骨子について、発表者の会社概要、塗装品目、塗料使用量、ライン設備、VOCとコスト削減取組み項目など冒頭に加え、実験にて分ったコストとVOC削減の結果を発表する案を提示し、広瀬氏にて内容の調整をして頂くこととした。

③ 環境対応塗料の効果的な塗装 [久保井塗装工業殿 窪井氏]

第一塗装工業殿と同様に会社概要など事業紹介を含める。

塗装業としてあるべき姿、最終的な目標を掲げ、VOCとコスト削減につなげる発表で進める。

④ 塗装ラインでの画期的なコスト削減方法 [東和酵素殿 内山氏]

発表時間50分の枠に対し、バイオ菌の話を20分、スラッジ15分、スクラバー10分として構成して頂くこととした。

3. 次回予定(VOC対策セミナー実行委員会、環境技術分科会)

1) 第5回 VOC対策セミナー実行委員会

2009年6月12日(金) 午前10時～塗料報知新聞社会議室

<予定議題> 上記 1. (2) 7)記載

2) 第12回 環境技術分科会

2009年6月12日(金) 午後1時～塗料報知新聞社会議室

<予定議題>

各テーマ発表

実験内容を含めた形で発表練習を行う。

各持ち時間60分とするので、発表30分以内、協議30分とする。

- ① 塗装/塗装機器 [オーウエル殿 小林氏]
- ② 洗浄 [第一塗装工業殿 広瀬氏]
- ③ 環境対応塗料の効果的な塗装 [久保井塗装工業殿 窪井氏]
- ④ 塗装ラインでの画期的なコスト削減方法 [東和酵素殿 内山氏]

————— 以 上 —————